



雪、雪、雪！ 植物は、だいじょうぶ？

今年の正月明けに、空から雪の「お年玉（落とし玉？）」がたんまりと届きました。もういらない！というほどの雪ですが、雪は札幌の自然の特徴といえます。およそ半年間も樹木が寒さと雪、風にさらされると、変形してしまうことがあります。

山の斜面下部では、木の根元が曲がっているのがよくみられます。これは、木が斜面に積もった雪の重みを受けて曲がってしまったためです（図1）。また、開けた場所で風雪が直接吹き付ける場所では、風上側の枝がないものもあります。枝の成長が害されて痛み、しだいに半分だけ枝がない姿になっていきます（旗型樹形、図2）。そのほかに、背の低い木は完全に雪に“生き埋め”状態となり、枝が折れてしまうこともあります（写真）。

それでも、木々は生きています。私達から見ると、植物も種類ごとにだいたい決まった形をしていて、一部が折れてなくなったり、不自然な形に変形したりしていると「枯れちゃうのかな？」と心配になります。ですが、植物は自分で作り出す物質（光合成の産物）と、生きていくのに使うエネルギーや物質との差し引きが大きくマイナスにならず、体を保つことができれば生きていけるのです。植物は動物のように天敵と戦うなどダイナミックな動きはありませんが、日々サバイバルをしているのです。（山崎）



写真：雪囲いで樹木の損傷を防ぐ。

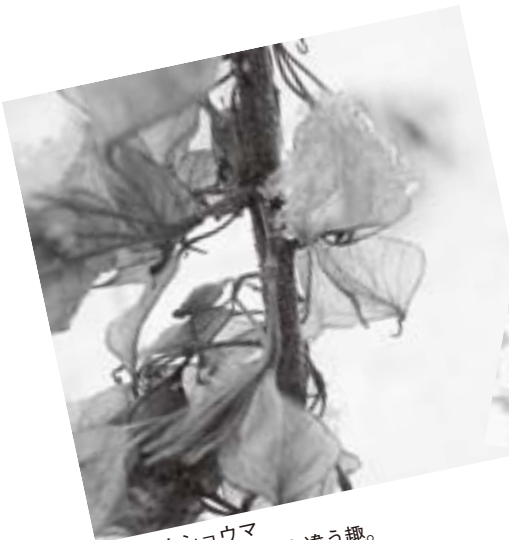
行事レポート

体験学習会「スノーシューで円山歩き～冬の観察会」

2010年12月25日(土)、2011年1月15日(土) いずれも10時～12時

会場 「ユースの森」(中央区宮の森1-14 (円山公園第一駐車場出入口の向かい))

ヤマブドウのつるにぶら下がったり、冬芽の観察をかねたビンゴゲームをしたり、冬の晴れ間を楽しみました。毎年開催していますが、ご自分のスノーシューをお持ちの方も年々増えてきました。



サラシナショウマ
果実(殻)は花とはまた違う趣。



ハリギリの冬芽

スノーシュー(かんじき)と
ストックがあると、深い雪の中
でも、足がうまらず歩けます。
雪の上をさんぽしてみよう。

観察できた動植物・フィールドサイン

鳥：オオアカゲラ(採餌)、カラス、
シジュウカラなど

哺乳類：エゾリス(カラマツの球果を採餌)
キタキツネ(足あと)

植物(木)：ヤマブドウ、ツルアジサイ、
ハルニレ、アサダ、ヤチダモ、
カツラ、ケヤマハンノキ、
ツルマサキなど

(草)：オオウバユリ、サラシナショウマ、
ゴボウ、ヤブタバコなど



オオアカゲラ